

清新の気

学校だより No.5
大津市立栗津中学校
令和3年11月11日
全校生徒 545名

「2学期行事 成功裏に終わる」

校長 藤原 祥功

8月以降のコロナ感染症急拡大により、まず部活動の停止となり新チームのスタートも切れず秋季大会が中止となりました。子どもたちが経験し学ぶ場面がまた一つ失われてしまいました。急遽、お盆明けに2学期以降の行事の取組み内容と時期を見直すこととなり「できるできない」「やるやらない」を協議しました。どのように見直しても感染は危惧されましたが「子どもたちの学ぶ場、思い出を守りたい」という教員の思いから最大限の計画を立て10月から取組みがスタートしました。幸い感染状況が急激に改善し感染者も出ず予定通りに取り組みました。全校一斉行事とはいきませんでした。子どもたちは文化祭、体育祭を通して一人ひとりが我慢、協調、緊張、達成感等を体験してくれたと思います。子どもたちは、この体験を今後の生活に活かしていくことが大切です。教員はそれを支援していくよう努めます。

＜体育祭＞

学年ごとに種目はチーム競技に絞った短時間での開催となりましたが、多くの保護者の皆様にご参観いただきありがとうございました。

中でも全員リレーは一人ひとりが50mの一瞬に不安感、緊張感、全集中、達成感、安堵感そして仲間を感じる競技だと思えます。校長はそのドラマを客観的に観ることができのです。とても贅沢なことです。子どもたちにありがとうと言いたいです。



＜文化祭＞

全校展示、学級旗、窓アート、ステージ発表、生徒会と自分のやりたいことを協力して作り上げていく。その取組み過程で生き生きと活動する子どもたちがそこにいます。完成された作品に込められた願い、発表に全力を注ぐ姿、どれもこれも素晴らしいかったです。

来年こそは保護者の皆様にも体感していただける状況になることを願っております。

文化祭体育祭後、新生徒会役員選挙があり会長副会長が選出されました。立候補してくれたみんなの

これからの頑張りを応援していきたいし、これから生徒会執行部に立候補してくれるみんなも応援していきたいと思います。11月22日には新生徒会執行部が発足します。何かレガシーを残してくれることを願っています。一緒に考えていきましょう。

「日本一琵琶湖に近い学校として」

(晴嵐の広場に載せる原稿を書いてもらったものです)

2年 飯島 淑登

栗津中学校は日本一琵琶湖に近い学校である。その栗津中学校では、6月15日(火)に琵琶湖湖岸清掃が行われた。部活動ごとに3つの班に分かれ、10分間清掃をする。事前からポスターが貼りだされていて、準備がしっかりとされていた。そのためかたくさんの生徒が清掃に参加していた。生徒は部活動単位で3つに分かれて行く。有志参加者もいた。また、人数は少ないが、保護者の方も来られていた。清掃は10分間行い、解散というのを繰り返していたが、雷鳴と降雨のため、残念ながら3班目は中止となってしまった。この活動によって琵琶湖との距離が今までよりも縮まったと思う。来年コロナが収まっていれば、地域の方にも参加してもらい、人との距離も縮められるようにすればよいと思う。身近に琵琶湖があるので、これからもきれいにしていける取り組みを考えたい。



1年校外学習(大津探訪)

1年生は、11月5日(金)に校外学習として、京阪沿線の名所(日吉大社・近江神宮・三井寺・石山寺など)を訪れました。秋晴れの元、大津の歴史物語に触れることができた貴重な1日となりました。各班で計画した内容で、班員がバラバラになることもなくしっかりと活動することができました。とても優秀でした。なお、11月18日(木)は3年の修学旅行(長嶋スパランド、なばなの里)、12月3日(金)は2年の校外学習(京都方面)を予定しています。



■写真で見る体育祭・文化祭■



窓アート



体育祭



学年ステージ

「つるべ落とし」と「秋の夜長」

「つるべ落とし」の「つるべ」とは、昔、井戸で水を汲み上げるために使っていたバケツのことをいいます。「つるべ」には、ひもがついていて、手を離すと井戸の中に急に落下していきます。その様子が、秋の日没に似ているのです。秋の夕暮れ時に、太陽が沈み始めて日没までの間が極めて短いことに例えているのです。

現在、完全下校は16時45分です。冬至までは、どんどんと日没が早くなります。寒くて暗いので、友人と誘い合って速やかに家路につきましょう。日没が早くなった分、夜は長くなります。「秋の夜長」ですね。この機会に読書や勉強、趣味に励んでみてはいかがでしょうか。

